

ニュースから考える

韓国で「いちご大福事件」が注目を集めました。被害者の A さんはテレビ番組に 384 回も出演し自分の不幸を訴えました。



番組で A さんは「日本の職人から、いちご大福を作る秘伝を学んで韓国に帰り、B

さんと共同経営を行った。秘伝のおかげで店が繁盛したが、Bさんとトラブルとなり自分は店を追い出され、学んだ技術を奪われ、脅迫され、本当に悔しい、助けてください」と訴えました。視聴者は「青年の夢を踏みにじった」と怒り、同情しました。一方、Bさんは事実と違うと泣いて訴えますが誰一人信じてくれませんでした。

ところが2年後真実が明らかになります・・・日本の職人によると「Aさんは店を2～3回訪れて、挨拶を

交わしただけで、技術を伝授していない、なぜなら彼はいちご大福の職人ではない」と証言、本当はお菓子職人である B さんのお店に「いちご大福」の技術を学びたいと青年実業家である A さんが訪れ共同経営がスタートし、Aさんは関係が悪化するとインターネットや SNS を悪用し、都合の良い嘘を流しテレビに取り上げられたのです。

悲劇の人と同情を集めた A さんはフルーツ大福専門ブランドを創業、全国 10ヶ所余りの加盟店を率い、中国進出も視野に入れる一方、Bさんは中傷を浴びながらも細々と小さなお店を守っていたのです。

しかし、悪いことは長くは続きません、検察が「事実を歪曲して相手にダメージを与えた張本人は、Aさんの方だ」と認め事件が急展開したのです・・・

テレビやインターネット、新聞・雑誌や人の噂には真実ではない事もあります。騙されないように気を付けたいですね・・・

1分でわかる業務カイゼン

江戸時代の「士農工商」は皆さんご存知ですよ・・・。武士が偉く、商人が一番身分の低い者という事でしょうか・・・。

実際、「武士道」と言う言葉はありますが「商業道」という言葉はありません。しかも「商業道徳」と言うように商人にはわざわざ道徳が必要だと言われる程です。つまり商人は油断ならない存在と言う事でしょう。

しかし現代社会において、商人（実業家）を身分の低い者と言う人はいません。昔の「士」に相当する政治家や役人は、「商」のために公共工事や補助金などを用いた雇用拡大政策や景気対策を行います。今の時代、従業員を雇用

し、納税を行う商人（実業家）は立派な存在なのです。

しかしながら、明治の偉大な経営者、渋沢栄一氏は商人にも武士道のように「実業道」が必要だと説いています。儲ける事は決して悪い事ではありません。しかし、その儲け方に道理があるのかどうか重要なのです。先ほど紹介した「イチゴ大福事件」の A さんがまさに悪い例です。

それに加えて、明治の実業家で富国強兵政策のおかげで成功を収めたはずの渋沢氏ですが

武士道

「政府の力に頼らないでやるという気力を持たなければ駄目だ」と後進の経営者に説いています。道理をわきまえ、国の政策に左右されない会社運営は渋沢氏が活躍した100年前も同じなのです。



いつも繰り返しますが渋沢氏の持論である「論語（道理）と算盤（経営）」は両立します。目先の利益ではなく、社員のため、社会のため、国家のためという大きな視点が大切なのでしょう。

事務所からのお知らせ

税制の動向など「税に関する情報」などをリアルタイムでインターネットに公開中です。

「手稲区 佐藤税理士ニュース」で検索するか、事務所のホームページ右下の [Facebook](#) をクリックしてご覧ください。



こちらをクリックすると「ニュース」が紹介されています。

今月のことば

十人が十人とも悪く言う奴、これは善人であろうはずがない。
だからといって、十人が十人ともよくいう奴、これも善人とは違う。
真の善人とは、十人のうち五人がけなし、五人がほめる人物である。
(孔子)

編集後記:

第二次世界大戦までの日本の商人や製品は信用できないと外国から思われていたそうですが、先人が信頼を積み重ね、今では「日本製品」＝「高品質」と世界中の誰かが認めています。

その精神を受け継ぐ私たちは、商人があるべき姿である「実業道」精神とは何かを考えながら経営を続けたいものです。究極の成功の秘訣は信頼の積み重ねです。(寿)

当事務所のお客様の最近の黒字決算割合（TKCが証明するデータを使用しています）

最近1年間：73.7%

前年同時期：83.3%

創業の目的を達成するためにも・・・黒字決算を目指しましょう！